

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第24週 (6/12-6/18) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		24週	23週	22週	21週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	4	4	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 6/5-6/11 23週
		注意報	6/12-6/18	6/5-6/11	5/29-6/4	5/22-5/28	
			24週	23週	22週	21週	
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	3 0.17	1 0.06	1 0.06	20 0.15
	咽頭結膜熱		7 0.39	10 0.56	6 0.33	8 0.44	138 1.02
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		55 3.06	64 3.56	65 3.61	60 3.33	556 4.12
	感染性胃腸炎		117 6.50	124 6.89	162 9.00	165 9.17	747 5.53
	水痘		10 0.56	10 0.56	12 0.67	10 0.56	66 0.49
	手足口病	○	21 1.17	20 1.11	14 0.78	20 1.11	79 0.59
	伝染性紅斑		0 0.00	2 0.11	1 0.06	1 0.06	10 0.07
	突発性発しん		14 0.78	15 0.83	18 1.00	19 1.06	92 0.68
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ	○	21 1.17	6 0.33	1 0.06	3 0.17	53 0.39
	流行性耳下腺炎		5 0.28	6 0.33	7 0.39	3 0.17	42 0.31
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		7 0.25	5 0.18	6 0.21	3 0.11	52 0.24
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.25	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	7 1.75	4 1.00	5 1.00	36 1.06
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 2.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	胸水ADA値の上昇	急性脳炎	男性	10歳未満	中枢神経症状等
結核	女性	30歳代	IGRA検査等	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状等

・第24週は、結核2件(101)、急性脳炎2件(11)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第24週のコメント

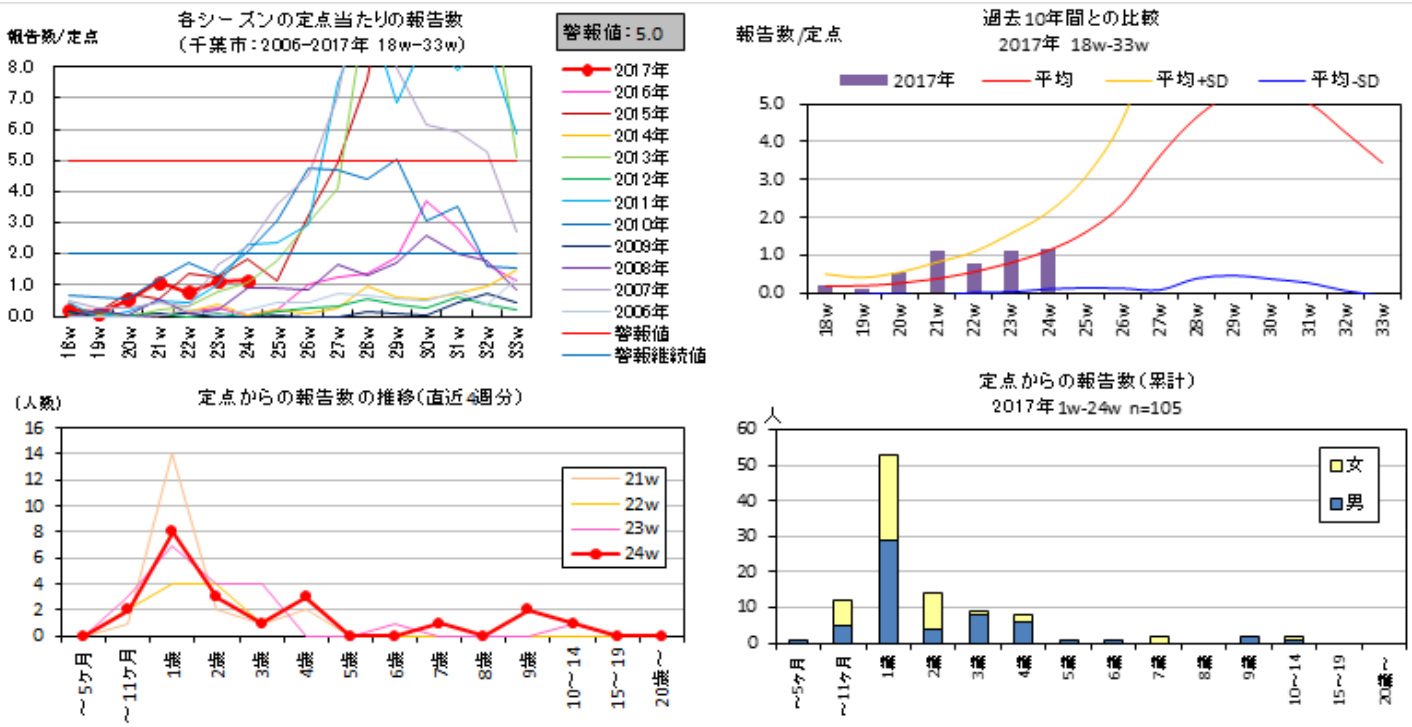
<手足口病> 前週より若干増加し1.17となった。過去10年の同期と比べるとほぼ平均レベル。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し1.17となった。過去10年の同期と比べると多い。

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第23週は、過去9年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、香川県、佐賀県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の第23週は前週より若干増加し1.17となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。例年の発生動向では今後増大する可能性があります。区別の発生状況は、緑区(2.75/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第24週までの累積報告数(n=105)によると、性別では男性が55.2%(58名)、女性が44.8%(47名)で、年齢階級別では1歳(50.5%:53名)、2歳(13.3%:14名)、6か月～11か月(11.4%:12名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの2017年第22週は過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では福岡県、鳥取県、香川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第24週は前週より増加し1.17となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向によると、今後増大する可能性があります。区別の発生状況は、緑区(3.25/定点)で最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第24週までの累積報告数(n=37)によると、性別では男性が62.2%(23名)、女性が37.8%(14名)で、年齢階級別では1歳(35.1%:13名)、2歳(24.3%:9名)、6か月～11か月(13.5%:5名)の順に多くなっています。

